

令和3年度 第2回 子ども・子育て未来会議 議事録

【日 時】 令和4年（2022年）1月28日（金）午前10時から

【出席委員】 池村委員、川上委員、松浦委員、吉坂委員、田中(一)委員、白鳥委員、田中(智)委員、稲塚委員、菅沼委員、奥村委員、大黒委員、中村委員、山中委員、加藤委員

【欠席委員】 徳永委員、小西委員、佐山委員、眞野委員

【事務局】 蒲谷健康福祉部長、中村子ども家庭局長、藪内子ども政策課長、谷幼児施設課長、山元課長補佐、村恵主査

【事 項】

1. 開会・あいさつ
2. 議事
 - 1) 令和4年度保育園等の入園見込みについて
令和4年度学童保育所の入所見込みについて
 - 2) 民営化に係るアンケート実施結果について
 - 3) 子育て支援アンケート（Webアンケート）実施結果について
アンケート結果から見えてくる新たな居場所づくり
3. 閉会

【議 事 録】

1. 開会

会 長 挨拶

事務局 委員18名中14名の出席により定足数を満たしているため、会議が成立することを報告

2. 議事

- 1) 令和4年度保育園等の入園見込みについて
令和4年度学童保育所の入所見込みについて

事務局 資料1-1、1-2により説明

会 長 少子化により子どもの人数が減少している中にもかかわらず、保育の必要な子どもは増加傾向となっています。それは小学校に入学した後も続いていくため、学童保育所も増加傾向になってしまうと考えられます。議事1についてご意見、質問等あればお願いします。

（意見・質問なし）

2) 民営化に係るアンケート実施結果について

事務局 資料2により説明

会 長 3つの保育園、2つの幼稚園、1つのこども園が民営化となりもうすぐ2年となります。アンケートの回答は民営化前から通われている家庭と民営化後に通われた家庭がそれぞれ約半数ずつだったとのこと。議事2についてご意見、質問等があればお願いいたします。

委 員 問11で、これは解釈の仕方ですが、「よかった」もしくは「概ね良かった」という方が、全体の半分にも達していない。そもそも民営化というのは、民営化すれば、従来よりもよくなるだろうという目標を持って民営化されたと思うのですが、それに対して従来よりも良くなったと言っている方が、半数以下であるという、そういう評価の見方ができるのではないかと思います。ただ、先ほどの評価の仕方は「良かった」という人が「良くなかった」という人を上回ったというような理解を、これでよかったという理解をされているように聞こえたのですが、辛めに見ると、目標が達成できていなかったという評価でないかと思しますので、今後の話になりますが、もう少し深掘りしていった方がいいのではないかと感じます。

事務局 結果としては「どちらともいえない」という方が最も多かったわけですが、「良かった」と言ってもらえるよう、市としても園と協力しながら見直していきたいと思えます。

会 長 アンケートの集計は全体を出していただいておりますが、それぞれの園ごとの評価は見られるようになるのでしょうか。

事務局 ホームページに掲載するのはあくまでも全体の評価とします。各園に対しては、このアンケート結果をフィードバックして、改善の一助になるようにしたいと思います。

会 長 先ほど委員がおっしゃったような、どちらとも言えないや、あまり評価されていないなどの不満もあれば、問12では内容が良くなったという意見もあるわけです。今後、第三者評価を考えていく上では、こういった分析も必要ではないかと思えます。

事務局 それぞれの園に対してグラフや数値にしてまとめており、各園はフィードバックを待っておられ、改善したいという思いも聞いておりますことを申し添えます。

3) 子育て支援アンケート（Webアンケート）実施結果について

アンケート結果から見えてくる新たな居場所づくり

会 長 議事3について事務局から説明願います。

事務局 資料3-1、3-2により説明

会 長 今事務局より説明がありましたが、放課後や長期休暇中の子どもの居場所の選択肢が少ないために、保護者が就労している家庭ではどうしても学童保育所のニーズが高くなっていく傾向があると考えられます。でも実際アンケートの結果では、母がパート勤務の家庭が一番多く、以前からよく聞かれる声でもありますように、「短時間勤務なので、学校のある日の放課後は学童に行かせる必要ないのだけど」ということから、学童保育所を利用している保護者の中にも本来は長期休暇中のみ子どもを預け

たいという方が大勢いるのではないかなと思います。また、保護者としても地域のつながりは子育てにおいて重要という意識が高いことに加え、地域での居場所づくりは子育て家庭の孤独化の防止や児童虐待の早期発見、経済的困窮世帯への支援や居場所づくり、課題を抱える家庭の把握や支援等につなげていけることから、地域や行政、子育て家庭、事業者など、地域社会全体で子育て支援を取り組んでいきたいということでした。これからは「身近な地域での子育て支援」というのが一つのキーワードとなり、身近な地域での支援や事業が必要となってくるのではないかなと思います。まずは、議事3の資料3-1子育て支援アンケートの結果に対してご意見、質問等があればお願いします。

委員

先ほどの事務局の説明を補足する形になりますが、学童保育が、皮肉なもので、コロナにより認知され始め、社会的にも欠かせない事業だと認識されました。そのような流れの中で、多様なニーズに応えるような、そういう場所になって来ているのではないかなと思ってます。長期休暇の利用についての声は、聞かないわけでもなく、20年くらい前は受け入れをしていたことがあります。児童数が増えてくると、施設が手狭となり、また心と心を通わせられるような関わりが、ただの見守りになってしまうという現場の切実な声もあります。そういうこともあり、1年間通してとなっているところです。既存の施設だけでは受け入れが困難である上、指導員の確保の方もなかなか難しいところがあります。そうは言っても一番困るのは子どもだと思うので、子どもが路頭に迷わないような、何か別の手立てとして、考えていただけないかということは、現場の方からも思ってます。

会長

他に資料3-1でご意見がないようでしたら、続いて資料3-2、アンケート結果から見えてくる新たな居場所づくりについてですが、先ほど事務局の説明の中にもありましたが、地域の取り組みに対して、社会福祉協議会からの助成金があるとのことでした。助成金も含め、社会福祉協議会で行っている地域事業に対する支援などがあればご説明いただきたいと思います。

委員

社会福祉協議会では子どもの未来づくり助成金により、子ども食堂の運営事業や、子どもの学習支援の運営事業を支援しています。事業の準備経費と運営経費という形で、現在、市内で5団体に対して助成しています。

会長

新生児訪問や乳幼児健診、あるいは相談時など、このような子育て支援があればよいというような保護者からの意見など、何かありますでしょうか。

委員

保健センターでは、妊婦の時期や乳幼児期の子どもを持つお母さんに関わる人が多いです。資料3-1に小児科を増やして欲しいという意見が出されているのですが、やはり身近なところに小児科があればいいという意見をとても聞きます。県外出身の両親の方も多く、車がない方も結構おられ、バスを乗り継いで、何とか病院に行っているということも聞きました。あとベトナム国籍の方がかなり増えています。車をお持ちじゃないというだけでなく、まだコミュニティが出来ていないので、なかなか近所に頼れる人がいないということも聞きます。妊婦さんが夜間に陣痛のとき、どうやって病院に行ったらよいかという声をもらっています。ゆりかごタクシーという、陣

痛時や破水時に対応してくれるタクシーがあるのですが、湖南省の方には夜間に来てもらえないということがあり、そういう支援があればいいのというご意見をもらっております。あと、遊びについてのことがアンケート結果にあったと思いますが、コロナ禍で外に出にくいということをおっしゃっています。子育て支援事業も感染対策されているのですが、それでも心配だし、行きにくいですと言われる方がおられました。コロナ禍での居場所づくりは大事だと思っています。

会 長

もう一つ、資料にある地域の居場所づくりにおいて、今後事業を展開していくとした場合、地域や行政などそれぞれの役割や、スムーズに事業を進めていくために必要だと思われることは何だと思われますか。

委 員

このアンケートや、資料3-2を見ると、夏休みなどの子どもの居場所が非常に求められているということですが、その居場所として、物理的な場所としては、まちづくりセンターを頼られているという傾向があります。私はまちづくりセンターにも関わっておりまして、その実態を言いますと、うちの地域のまちづくりセンターは、非常に利用者が多い。したがって夏の1か月間、ある部屋、もしくは複数の部屋をずっと占領されてしまうのは、本来のまちづくりセンターの目的から反してしまうという結果になります。また、仮に部屋が1つ空いていたとしても、お子さんはその部屋の中でじっとしていないので、おそらくセンターの中、走り回ってしまい、他が使えなくなってしまうというようなこともあるんじゃないかと思いますので、あまりまちづくりセンターにこだわると、逆に行き先がなくなってしまうんじゃないかなと思います。そういう観点では、自治会館を利用するというのも一つの選択肢として考えられた方がいいんじゃないかと思います。地域で何かやろうという観点からいうと自治会館は非常に有効な場所になると思います。また、お子さんたちのお住まいに近いところに位置している。それと近所の方が面倒を見れるという、そういうプラスαの利点があるんじゃないかと思います。具体的には、その近隣のお年寄りで、何か活かしたいという方が結構おられますので、お子さんと一緒に、いわゆる世代間交流の場に持っていく、というようなことも可能になるんじゃないかなと思います。ただしそれをやるためには一体誰がリーダーシップをとって、そういう核を植えつけるのかというところは、やはり行政の方に強いリーダーシップをとっていただいて、まずスタートさせるっていうところが大事じゃないかなと思います。一旦スタートすれば、その近所の方、地域の方が、その輪の中に入って行って、自然と上手く転がっていくと思います。なかなか、最初から全てやってというやり方は、悪い言い方をすると地域へ丸投げという見え方になってしまいますので、そこは行政が中心になって、本気になってやっていかないとなかなか難しいのではないかと思います。今我々まちづくり協議会でも、居場所づくりとして、子ども食堂をやっているのですが、実際はボランティアの方々でやっていただいています。場所や費用のこともありますが、やっていただく方の時間の関係で、月1回であるとか、多くて月2・3回、それが限度ではないかと思います。そういう意味では今、子ども食堂というより、フリースペースの提供の方に、移っていかなくてはならないというように思っています。そのときは各自治会

- と協力をとり自治会館を利用して進めなければならないと考えている次第です。
- 会 長 続きまして、「湖南省に必要だと考えられる子育て支援など」「地域に求められる子育て支援など」という事務局からの事前課題について、どちらかの発言を委員の皆様からしていただければと思います。
- 委 員 15 ページの意見で、子どもの体力などに関しての内容がありましたが、以前であれば、放課後や休日に、子どもたちが学校のグラウンドなどに遊びに来ていたが、最近あまり見かけません。学校にある遊具が危険だから撤去、老朽化で、使用禁止になるものがすごく増えています。現在でも、ジャングルジムと鉄棒が使用不可になっております。そういったところに以前は子どもたちが集まって遊んでいたりして、子どもたちの集まれる場所になっていたかと思うのですが、最近、集まるというと、スポ少さん頼みになっているかなと。それ以外で学校というのが、もうひとつ活かされていないのかもしれない。学童の近くには、公園があつてということもあるのですが、みんなが安心して行けるところをもうちょっと増やしていただけたらなという気はします。遊具なども減らす一方ではなく、修繕などで維持できるような形に学校としてはしていただけたらありがたいと感じております。
- 委 員 今のお話と重なってきますが、やはり地域の公園なども老朽化などで使えないところが増えてきています。子どもの遊び場が少なくなっているのじゃないかなというのと、不審者情報も最近多いなと思っており、公園で子どもたちだけで遊ばせることにも不安を抱えてる保護者さんが、たくさんおられるかと思えます。常に親が見守ることができれば一番だとは思いますが、なかなか働いていて、そういったこともできないと思うので、防犯カメラをつけるなど何か対策できないかなと感じています。あと、市営のプールも、なくなる方向で聞いているので、そういったことも、子どもの体力向上もあり、無くすじゃなく修繕するなどであればありがたいと思っています。あと先ほど、まちづくりセンターは子どものつどう場所としては難しいのじゃないかというお話もありましたが、例えば未就園児がつどう場所として、週1回、順番に各まちづくりセンターを利用していければ、その地域の保護者さん、子育て世代の方で集まる機会も増えていいのかなと思います。やはり地域の人とつながりたいという思いを抱えておられる方もたくさんいらっしゃいますので、そういう機会が増えたらいいかなと思います。今も各中学校区に一つは、広場やセンターがあるかと思いますが、車を持っておらず来るのが大変という方もいらっしゃるの、徒歩圏内や自転車を使って行ける場所、まちづくりセンターや自治会館を使っていけたらもっと良くなるのかなと思っています。
- 委 員 資料3-2については、先ほど、お話ししたとおりで、地域の中で子どもたちが安心して過ごせる場が、長期休暇を学童保育で過ごすだけではなく、長期休暇中の選択肢を増やす意味でも、まず居場所が必要だとは思っています。具体的に自治会館やまちづくりセンターなど既存の場所を使うことは、地域の中で、学童保育が根差すという意味、子どもたちが育つという意味も込め、とても安心できる場所かと思えます。放課後を過ごす場や長期休暇を過ごす場が、学童保育しかなかったという現状から、

いろいろな保護者ニーズも含めて、利用できる場所が増えていくと、ますます子育てしやすい市になっていくのではないのかと思っています。

委員

保育園も学童保育も運営しているので、このアンケートの結果を見て、何かできることはないのかと、他の職員とも考えています。ただ、問題もいろいろあって、まだ私たちの中では答えが出ていない状態です。今皆さんの意見の中に、ヒントがあったと思います。私たちもこういう事業をしているので、実際にこのニーズに対して、少しでも早く提供してあげられるようにと、気持ちはものすごくあるのですが、乗り越えなければいけないハードルもたくさんあるなど悩んでいます。

委員

三雲学童保育所もすごい人数になってきており、指導員の先生が頭を悩ませておられ、次年度に向けて、施設の一部を改装して、新たな入所者に対して保育できるように進めていただいている状況です。また指導員の先生も不足してきているという状況の中で何とか対応して下さるということで、本当にありがたいなと思います。やはり負担もすごくかかっていると思いますので、先ほどご意見があったように、地域のまちづくりセンターや自治会館を利用したやり方が実現できると学童も助かるかと思えますし、ぜひ利用したいと思う保護者も多いと思いますので、ぜひ前向きにご検討いただきたいと思います。

委員

いろいろお話を聞かせていただいている中で、居場所というキーワードが出てきているのですが、少年センターでは居場所というものを、「心が温まり活力を取り戻せる場所」と捉えています。そういう意味から考えて、先ほどから出ている、例えばまちづくりセンターで、その場所を確保するのいいのですが、その居場所づくりをする人をどのように育てていくか、そういうことも、単にまちづくりセンターに任すのではなく、やっぱり行政も含めた、地域全体の中で作り上げていくってということが、この子育てに関わる居場所づくりの大きなポイントであり、課題ではないかと聞かせていただきました。

委員

まず、資料3-1の13ページのところに、障がいがあってもなくてもという設問をアンケートに加えていただきありがとうございました。その結果、たくさんご意見をいただいたと思っています。中でも、障がいは個性であるということ、障がいの有無にかかわらず、そのお子さんの個性であるということ、大事にしないといけないんじゃないかということ、インクルーシブ教育のことが大事なんじゃないかというご意見があったり、とてもよいご意見だなと思いますので、ぜひ施策につなげていただけたらと思っています。また資料3-2のご説明や皆さんからのご発言をお聞きしてですが、障がいのあるお子さんも、コロナ禍で休校になったり、学級閉鎖になってしまったりで、休まざるをえないことがあります。生活リズムが崩れてしまうと、建て直すのがとても大変なお子さん多数いらっしゃると思います。そういうお子さんの保護者さんは悩まれていると聞いていますので、障がいのあるお子さんの居場所をどう考えていくかというところは、障がいのないお子さんにとってもよい居場所になるはずだと思っています。障がいの施策の中でも、もちろん放課後等デイサービスなど、いろいろありますが、障がいの有無にかかわらず過ごせる場所は、必要じゃないかと思っ

ています。国の方も、その分野にかかわらず相談を受けとめる、例えば高齢、障がい、子ども、生活困窮、分野で相談窓口が分かれているところを一体化しようという、重層的支援体制整備事業という動きもあります。

委員

年間通して園児の預かり保育ということで、2号の子どもの保育と、1号の幼稚園時間の子どもの預かり保育をしておりますが、やはり夏休みは利用者が増えるケースが多いです。ですが、学童保育所と同じように、それだけの人数に対応するというのはかなり大変ということがあります。先ほどからどこでやったらいいかとか、まちづくりセンターや自治会館とか、いい意見がいっぱい出ているのですが、部屋はあっても、それに対応する人員を確保するのが難しいというのが、今の園の状況です。預かりの対応に当たらなければならないので、正職のものはほぼ夏休みがない状態が続いているのが現状です。多分その預かり保育と同じようなことを考えると、学童保育所でも、場所だけではなくて、指導員をどのように確保していくのか。まずそこがクリアになって、次場所はどこを使おうかというようなことを考えていかないといけないので、まず人的な部分の確保が重要になってくるのかと感じます。

委員

湖南省に必要だと考えられる子育て支援のことですが、13ページの問1のところ、「おむつなど必ず使うものへの援助」というのがありました。子ども2、3人連れ、たくさんの荷物を持って、通園されている姿を見ると、少しでも荷物が少なくなったらいいなと思いました。おむつの月額定額制のサービスというのがあるようで、定額を払えば、保護者がおむつやお尻拭きを持っていかなくても、園で使い放題というようなシステムのようなようです。その費用を市で援助して実施するなど、保護者の負担を軽くするようにしていけたら荷物も少なくなるし保護者の負担も少なくなると思います。未満児は無償化の対象外なので、そういった支援ができたらいいなと思いました。また、地域に求められる子育て支援ですが、主任児童委員が地域にいるので自治会館でサロンをしていますが、コロナの影響で、地域サロンも少なくなっています。15ページの問4のところ、幼稚園・保育園等の園庭開放をたくさんしてもらえたらという意見もありました。8園ありました公立園が民営化された後、公立園で行っていた子育てサロンは少なくなり、民営化後の園は、なかなか関わっていないというところがあるので、そのあたりも進められたらいいと思いました。

委員

先ほどの資料2のアンケートのところに、発達支援の強化を求めるというご意見を4件ほどいただいていた。民営化されて、湖南省に新しく加わった全ての園が発達支援システムの中で、巡回相談や発達相談といったものをご利用いただいたり、就学支援を進めていただいたりしているところです。発達支援室も各民営化園に出向き、発達支援について様々な相談に乗ったり助言をしたりしています。そういった形で、民営化園についても、一緒にやっていければと考えておりますし、また学童保育所についても、今年度から巡回相談として、どういった設備を整えたらいいか、子どもさんにどう関わるのがいいかといった助言をさせてもらっているところです。利用される方が多くなり負担も大きくなっているというようなお話もありましたが、巡回相談や研修会といった形で、学童保育所を支えていけたらと考えております。

会 長 まだまだ言い足りないことについては、事前課題の用紙でも結構ですので事務局の方にお寄せいただければありがたく思います。よろしくお願いいたします。

3. 閉会

事務局 閉会挨拶

【11時30分終了】